

第1学年1組 国語科学習指導案

日 時：令和6年10月8日（火）5校時

場 所：浜田市立松原小学校 1年1組教室

1 単元名 はっけんしたことを かいてしらせよう！

2 教材名 はっけんしたよ 東京書籍1年下

3 学 級 松原小学校 1年1組 13名

4 単元づくりの構想

本単元で付けたい力

経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。

情報活用能力指導の観点

※アルファベットは「松原小学びの指導体系表」より

○題材の設定

- d 身近なことや経験したことなどから
興味・関心に応じて学習課題を決める。

○情報の収集

- e 伝え合うために必要な事柄か判断して選ぶ。

○情報の整理

- k 付箋に書く。

○情報の活用・伝達

- m 気づいたことや分かったことを
簡単な文で書く。

教材の特質

本単元は、説明・報告する文章を書く学習の系統の単元として位置づけられる。観察したことや観察して感じたことなどを、言葉にして伝える喜びや楽しさを味わうことで、児童の書きたいという意欲を高めるのに適した単元であるといえる。また、自分の知りたい確かめたいことを情報を活用し探求することができる単元でもある。

観察して気づいたことを確かめる段階では、自分の知りたい、確かめたい情報が分かりやすい本を選定し学級に置くことで、図書館の活用を図ることもねらうことができる。

本単元に関わる子どもの実態

1年6月「こんなことしたよ」や、7月「えにっきをかこう」で、体験したことを人に伝えるために文章に書く学習を行っている。また、「ことばあそびうたをつくろう」では、音や様子を擬声語や擬態語で表現することも経験している。これまで、自分が経験したことの中から書くことを決め、それについていくつかの文を書く学習を行ってきたが、見たものを文章で書いて様子を伝えることは初めてである。既習の学習経験を踏まえ、本単元では自分の見つけたものの様子が読む人に伝わるように、必要な事柄を集めたり確かめたりして、見つけたものをよく見て文章を書く力を育みたい。

5 研究の重点とのかかわり

(1) 視点1 情報活用能力の系統的指導

①学習の見通しをもたせる

単元を見通した計画表を掲示しておき、毎時間の始めに全員で確認をする。単元のゴール「紹介の文章」の作成に向けて、見通しをもって学習を進めていくことができるようにした。そして、本単元でつきたい力「よく見て書く」を毎時間確認し、子ども自身が単元のゴールを理解し、つきたい力を意識しながら学習に向かうことができるようにしたい。

②松原小学び方指導体系表とのかかわり

本単元では主に「d 題材の設定・e 情報の収集・k 情報の整理・m まとめる」の観点を取り上げている。

d は経験したことや想像したことなどから書くことを見つける場面、e は観察してより詳しく調べたいことについて必要な図書を見つける場面、k は気づいたことや分かったことについて付箋に書く場面、m はメモから簡単な文章に書き直す場面にあたる。1 年生でつきたい力を意識し、指導にあたっていきたい。

(2) 視点2 要約学習の実践

①全校「要約トレーニング」の実践

昨年度から全校で週1回「要約学習」に取り組んでいる。各学年に応じた内容で積み重ねていくことにより、情報活用、読み取りにおける一つのアイテムを獲得することをねらっている。低学年では発達段階に応じて、絵や写真を活用し、聞くことを大切にしながら【図を見ながら話を聞く→聞いた内容を友達に説明する→ふりかえる】という手順で行っている。

②各教科、領域等での活用

本単元では、要約学習を取り入れて読み取ることに挑戦している。【観察をする→(図鑑で調べる→)キーワードをつかむ→付箋に書く→付箋と写真をもとに友達に説明する→話したことを書く】という手順で読み取っていく。

(3) 視点3 言語活動、言語環境の充実

見たものを伝えるために色・形・大きさなどのものの様子をあらわす言葉を知ることが必要になる。学級で言葉集めを行ったり、教師が観点を掲示したりすることで使える言葉を増やしていく。また、子どもの「知りたい」「伝えたい」といった思いを重視し主体的に課題解決していくために、学校司書と連携し、一人に一冊ずつポケット図鑑を用意しておき、いつでも知りたいことについて調べることが可能になるようにする。また事前に、図鑑での調べ方について指導しておくことで、子供たちが詳しく調べたい動植物について自分で調べることができるようにする。

6 単元の目標

- (1) 身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づくことができる。【知識、技能】(1) オ
- (2) 経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。【思考力、判断力、表現力等】B (1) ア
- (3) 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。【思考力、判断力、表現力等】B (1) ウ
- (4) 進んで動植物の様子を観察して記録し、学習の見通しをもって友達に伝える文章を書こうとする。【学びに向かう力、人間性等】

7 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。(1) オ	①経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。B(1) ア ②語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。B(1) ウ	進んで動植物の様子を観察して記録し、学習の見通しをもって友達に伝える文章を書こうとしている。

8 単元の指導計画(全9時間扱い)

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
第一次	1	・既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。	・これまでに書いた文章や、身の回りの動植物を観察した経験を想起させる。	
第二次	2	①「発見メモ」を書く。 ・全体で確認しながら朝顔について「発見メモ」に書く。	・児童が触れた経験のあるものを具体的に想起させ、身近な動植物へ関心を向けることができるようにする。	【思考・判断・表現①】 発言・ワークシート 身近な動植物について伝えたり、書いたりしている内容の確認。 【思考・判断・表現②】 観察・ワークシート ワークシートへの書き込み、付箋の内容の確認。 【知識・技能】 観察・ワークシート 発見メモをもとに伝えたり、書いたりしている内容の確認。 【主体的に学習に取り組む態度】 観察・ワークシート 様子を伝える文章の書き表し方を工夫しようとしている姿の確認。
	3	・身の回りの動植物のうち、観察したいものを決める。	・発見メモを掲示しておくことで、書き方を確認しながら自分のカードを書くことができるようにする。	
	4 (本時)	・教師が作成した見本を見ながら、発見メモの書き方を確認する。 ・「発見メモ」を紹介し合う。	・付箋に書きにくい場合には、写真を見て気づいたことを言葉で表現させたり、観察の観点ごとに確認したりすることで、紹介したいことを決めることができるようにする。	
	5	②様子を伝える文章を書く。	・「いつ」「どこで」「何を見たか」「発見したこと」「思ったこと」の順で書かれていることを確認する。	
	6	・教師が作成した発見メモと文章を読み、文章の書き方について確認する。	・書き終えたら、書いた文章を声に出して読み、誤字や脱字がないかを確認する。	
	7			
	8	・「発見メモ」をもとに様子を伝える文章を書く。		
第三次	9	・友達と文章を読み合い、学習のまとめをする。	・お互いに感想を話し、意欲にかなげる。	

9 本時の指導（4／9時間目）

（1）本時のねらい

観察し気づいたことや図鑑で調べて分かったことについて、項目や観点に沿って付箋を書き、「発見メモ」に書くことができる。

【思考力、判断力、表現力等】B（1）ア

（2）本時の展開

学習活動	・教師の支援	【評 価】
1. 本時の課題をつかむ。	・本時のめあてと学習の進め方を確認する。	
きづいたことや わかったことを「はっけんメモ」にかこう。		
2. 発見メモの書き方を確認する。	・教師が作成した見本を見ながら、発見メモの書き方（付箋1枚について好きなところ1つを書くこと）を確認する。 ・観察して気づいたことだけではなく、図鑑で調べて分かったことも書いてよいことを伝える。	
3. 気づいたことなどを付箋に書き、発見カードに貼る。	・発見メモを掲示しておくことで、書き方を確認しながら自分のカードを書くことができるようにする。 ・付箋に書きにくい児童には、写真を見て気づいたことを言葉で表現させたり、観察の観点ごとに確認したりすることで、紹介したいことを決めることができるようにする。	
【思考・判断・表現】発言・観察・発見メモ ・気づいたことや分かったことについて、色・形・大きさなど項目ごとにわけて付箋を書き、「発見メモ」に書いている。		
4. ペアの友達と紹介し合う。 （3人程度）	・発見メモの読み方や相手に分かりやすく伝える話し方について確認し、個人で読む練習をしてからペアの友達に伝えるようにする。 ・相手を変えて繰り返し言葉にして伝える楽しさを味わうことで、次時での文章に書く活動への意欲をもてるようにする。	
5. 学習を振り返る。	・学習を振り返り、本時の学びを実感させたり、次時の課題を確認したりして学習のまとめとする。	

10 本時の評価

十分満足できると判断される状況	概ね満足できると判断される状況	支援を要する状況への手立て
・気づいたことや分かったことについて、色・形・大きさなど項目ごとに分けて付箋を書き、「発見メモ」に書いている。 ・書いたカードを見直したり、友達にアドバイスをしたりしている。	・気づいたことや分かったことについて付箋を書き、「発見メモ」に書いている。	・見本の発見メモを確認しながら、写真を見て気づいたことを言葉で表現させたり、観察の観点ごとに確認したりすることで、紹介したいことを決めることができるようにする。

Ⅰ Ⅰ 研究協議の記録

観察のことば

- ・観察の言葉があったので、項目ごとに分けて付箋を書いていた。
- ・観察の言葉を手掛かりに付箋を書き進めている子もいた。

図鑑の活用

- ・図鑑を手取ることに慣れており、図鑑で調べる際に調べたいことについて、まず目次と索引から探す姿が見られた。
- ・観察したことと、調べたことで付箋の色を変える工夫もあるとよかった。
- ・手元に調べる物の実物があると、図鑑と関連付けながら調べることができてよかった。特に大きさを調べるときには実物があるとよかった。

情報の整理

- ・付箋を活用することで、色・形・大きさの観点に分けて短い言葉でまとめていた。
- ・1つの付箋に長い文章を書く子もいた。付箋の大きさが足りない様子もあったので、付箋の大きさを複数種類用意してあってもよかったのではないかな。

見本

- ・活動に入る前に見本や発表の仕方などみんなで確認することで、子どもたちが迷うことなく意欲的に取り組んでいた。
- ・教師がお手本を示すことで、子どもたちも納得し、安心感をもって自分の練習に移ることができた。

ペアでの伝え合い

- ・発見メモを伝え合う活動を3回繰り返すことで、伝え方が上達し自然と伝えたい内容が整理されていた。次時の書く活動につながる
- ・中には説明の仕方に変化がない子もいたので、進め方の上手な例やフィードバックをしてから次の伝え合いに進むと、より意欲的に活動したのではないかな。
- ・ペアの子からのコメントを付箋に書き足すなどして、ペアの子からのコメントを活かせる活動が何かあるとよかった。

選書

- ・情報が選択しやすい図鑑が選んであった。

【指導・講評】

- ・伝え合う活動

観察したこと、調べたことについて3回ペアを変えて伝え合うことで、子どもたちは自然と伝えたいことを絞っていく。1年生の子供たちの集中力を考えても3回というのは一番望ましい回数である。

- ・図鑑の活用について

低学年のうちから、自分の知りたいと思うことを図鑑で調べるという経験をするのが大切。そのために自分で、図鑑の目次と索引を使って探し出せる力を身に付けさせる必要がある。低学年のうちに図鑑にたくさん親しんでおくと、その後の百科事典へと深めていくことができる。

- ・付箋の活用について

貼り付け、貼り替えができることで、低学年の子供たちも取り組みやすかったのではないかな。

12 考察（成果・課題）

使用する図鑑の選定

生活科の「秋見つけ」の際に見つけた生き物や植物について、観察したことや調べて分かったことについて紹介することを本単元の言語活動に設定した。そのため学校の周りに生息する動植物について、季節や生息場所でまとめられているポケット図鑑を一人1冊手元に置くことにした。また、図鑑を活用するにあたって事前に図鑑での調べ方について指導をするために、数ある種類の中で目次が前方で索引が後方に載っていて、索引が全て平仮名書きの図鑑を紹介してもらい活用した。図鑑も全児童分を用意したことで、同じ図鑑を使って学習ができ、子ども同士で教え合う姿も見られた。

図鑑の仕組みの解説

これまでも図鑑に触れている児童が多く、図鑑に対して興味・関心も高かった。本単元は図鑑活用の導入の時間のため、図鑑の仕組みについて丁寧に学習し、目次と索引を使って自分から進んで調べることができる力を身に付ける大切な時間だと考え指導した。絵本に出てくる虫の名前を図鑑から探し出す活動や、植物の大きさを図鑑を使って調べる活動などを行い、図鑑の種類や構成を指導した。その中で子供たちはやみくもにページをめくるのではなく、目次と索引を使うことの便利さを実感したようだった。同じ図鑑を繰り返し使って慣れることで、その後も他の図鑑へ無理なく移行し、次の学習へと発展することがスムーズであった。

情報の収集

発見メモに付箋を活用し、付箋1枚に大きさ・色・形などを分けて書くようにした。メモの段階で付箋を活用することで、付箋を移動させたり、付箋同士を線で結び付けたりして考えを整理することができた。また、ワークシートなどに書き込むのではなく、付箋に書くということで取り掛かりやすさもあった。しかし、図鑑の中の膨大な情報から、必要なキーワードを抜き出す力は個人差が見られ、中には小さい付箋に頑張って長い文章を書き写している児童もいた。付箋の大きさを選択できる工夫があるとよかった。

また、観察したことと調べたことで付箋の色を分けなかったが、付箋の色で分けることで、自分が観察した事実と図鑑で調べた情報とを分けて整理させるとよかった。

要約学習の活用

今回の学習では、発見メモを友達に紹介する際に要約学習を取り入れた。相手を変えて繰り返し伝え合うことで、より伝わりやすい方法に変えていく姿が見られた。また、友達に伝えることで自信が付き、「みんなにも聞いてほしい」と発言する児童もいた。要約学習でも行っている、キーワードをもとにまず話をし、それから文章を書くという学習活動の流れは本単元で有効であった。

しかし伝え合う場面で、ワークシートで顔が隠れていたり、友達にワークシートを見せずに紹介したりする児童もいた。相手を意識した話し方を日頃から意識し、さらに身に付けていく必要がある。

図鑑の活用



